

〔 〕 ニコラス・ラウダスの経歴

〔 〕

〔作曲者〕 Nikolas Lavdas

ニコラス ラウダス

〔編集〕 Jiro Nakano

中野二郎

1879年、アンドロス島（ギリシャ・キクラディオス諸島）ピトロフォス村生まれ、1940年、アテネで死去。

彼の父は兄弟四人（ニコラオス、コンスタンティノ、ジェオギオス、ゼノフォン）をその地で教育を受けさせるため、ピトロフェス村を離れ、アテネに移住。

コンスタンティノ（音楽家「アテナイキ・マンドリナータ」オーケストラのマンドリン第一奏者、同音楽学校の教諭並びに副校長を勤める。

著書には「ギター奏法」などがある）。

ジェオギオス（陸軍将校、1940-1941年のギリシャーイタリア戦争には、陸軍第二師団長、指揮官を勤める。

音楽は、彼の幅広い知的教育の一環であり、青年時代「アテナイキ・マンドリナータ」に参加し、当初のコンサートでは、マンドラを演奏する）。

ゼノフォン（商船技師）。

青年時代、叔父の影響を受け、N.ラウダスはマンドリンに興味をいだいた。

19世紀後半から20世紀前半にかけて、マンドリン、ギターがギリシャ中で大流行し、アンドロス島では、何ら系統立った練習を積まず、

自己流でマンドリンを奏くという家族も多くみられた。

N.ラウダスは、アテネ大学で数理学を専攻し（物理科学博士号取得）アテネ芸術大学で音楽を学んだ。

そのからわら J. マスネーの教えを受け、

作曲家、オーケストラ指揮者として活躍中のディオニシオス、ラブラガス（ギリシャ歌劇創設）（1862-1941）の個人教授を受けた。

収録のマンドリン曲の他、校歌、児童ミュージカル作品、25のギリシャ民謡和声歌、ギリシャ古典音楽の旋法を正確に伝えた作品がある。

彼は又、マンドリナータ用に様々な作品の編曲も手がけた。

その著書には「マンドリンの奏法」「音楽理論の手引き」がある。

N.ラウドスは、道德心に富んだ、穏和な人となりで、感受性豊かで、善良な人物であった。

彼は、科学者そして芸術家としての道を探求していった。

マンドリン古典合奏曲集、別冊ニコラス・ラウドス集より